

初代総長佐藤昌介の扁額を大学文書館で受贈

11月12日（月）、大学文書館では、和歌山県在住の卒業生の方から、初代総長佐藤昌介の自作漢詩を書した扁額をご寄贈いただきました。寄贈者のご夫人のご祖母様が佐藤のご一族から、掛け軸として譲り受けられ、今夏、修復と額装をされたそうです。

佐藤昌介（1856-1939年）は、第1期生として札幌農学校に入学し、卒業後にアメリカ留学などを経て母校の教授に就任し、校長（札幌農学校）・学長（東北帝国大学農科大学）・総長（北海道帝国大学）として約40年にわたり本学を牽引しました。また、「北海農人」の雅号を用いて書をよくし、漢詩も作りました。

ご寄贈いただいた書は「甲子初夏」（1924年初夏）の筆で、春に秋の収穫を期待する自作の七言絶句を揮毫しています。佐藤の書としてはやや小振りですが、一際端正な印象を残します。

書は以下の28文字です。

春風度水暎嵐濃
西落東郊將力農
偏願家々耕稼後
金秋收穫穀千鐘

漢詩の書き下し、口語訳についても、寄贈者からご教示をいただきました。

【書き下し】

春風水を度り暎嵐濃やかなり
西落東郊將に力農せんとす
偏えに願う家々耕稼の後
金秋の收穫穀千鐘ならん

【口語訳】

春の風が川面をわたり、明け方の空気がしっとりとしてみずみずしい。西の野も東の平野も農耕に力を尽くすことであろう。

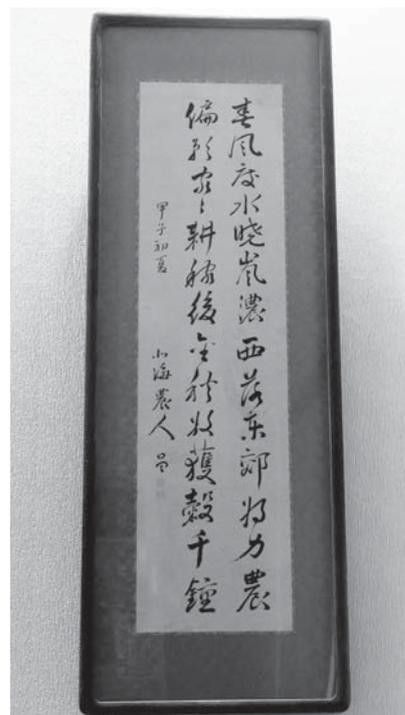
ひとえに願う、各家々が耕作に励んだ後に、実りの秋を迎えて、収穫の穀物が千個の釣りの鐘のようにどっさりと得られることを。

ご寄贈いただいた扁額は、来夏まで、新渡戸稲造や内村鑑三の扁額と共に、大学文書館閲覧室において展示・公開を行ないます。開館時間（平日9:30～16:30）にご覧いただけます。

（大学文書館）



閲覧室での扁額展示



佐藤昌介揮毫の扁額